

第613回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2019年5月度 ——

◇ 開催日

2019年5月20日(月)

◇ 議題

<テレビ番組> 「発見！九州スピリット」

<放送日時>

2月「村社講平」4話（#238～241）2/2、2/9、2/16、2/23

3月「辰野金吾」5話（#242～246）3/2、3/9、3/16、3/23、3/30

（※レギュラー放送時間：毎週土曜日よる11：10～11：15）

◇ その他

第613回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2019年5月20日(月)午後3時30分～4時50分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社役員会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 6名

委員長	野田 幸之輔
委員	鶴 利絵
委員	安恒 万記
委員	戸田 康一郎
委員	守田 有理子
委員	赤木 由美

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	和 氣 靖
取締役	笹 栗 哲 朗
取締役 総合編成局長	森 君 夫
ラジオ局長	穴 井 建 一
報道局長	臼 井 賢一郎
テレビ営業局業務部担当部長	末 崎 博 法
ケイ・ビー・シー映像制作部 プロデューサー	中 村 隆 之
番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	井 上 千 秋
番組審議会事務局（視聴者・広報室）	松 永 俊 郎

4. 議題

(1) テレビ番組「発見！九州スピリット」

<放送日時>

2月「村社講平」4話（#238～241）2/2、2/9、2/16、2/23

3月「辰野金吾」5話（#242～246）3/2、3/9、3/16、3/23、3/30

（※レギュラー放送時間：毎週土曜日よる11：10～11：15）

(2) 2019年5月・6月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告

(3) 2019年4月 視聴者・聴取者応答状況の報告

(4) その他

5. 議事の概要

◎委員の意見（概要）

番組について委員からは、

- 九州出身の人物の情熱や素晴らしい成果が上手にまとめられており、歴史的意義も非常に高い良質な番組だと思った。九州にゆかりがあっても「スピリット」が九州に残っていなければ取り上げない番組のコンセプトは、番組制作上の「制約」にもなるだろう。しかし、有名な人物や祭りは他の番組でも取り上げられることが多く、知らないことを取り上げる方がより面白く感じると思った。
- 1回の放送時間は非常に短いですが、映像のほか、アナウンサーによる説明、テロップによる補足によって内容が凝縮され、構成上の一つ一つが上手に練られた番組だと感服した。知らないことや話題、ちょっと人にしゃべりたくなるようなうんちくもあり、程よい感じだと思った。（番組を知らない人も）思いがけず出くわすとお得な気分になれる番組だと思った。
- ドキュメンタリー映画『民族の祭典』を使用した場面では、スタジアムの観客が「ムラコソ！」と大声援を送るシーンを確認でき、村社さんが本当に観客を熱狂させたことが伝わった。オリンピック2大会で4つの金メダルを取ったチェコのエミール・ザトペックさんの「どうしても村社講平と一緒に走りたい 彼は私を陸上競技の道へ進ませてくれた憧れの人」との言葉から、村社さんの偉大さを認識できた。
- 工部大学校に末席で入学した辰野さんが、人の倍の努力をして首席で卒業したエピソードや、優美ながらも頑健な建築作品を「辰野堅固」と自称していたことは興味深かった。
- 辰野さんのエピソードで、東京駅のドーム状天井に8つの干支があり、残りの4つは故郷の佐賀県武雄温泉楼門にあることは初めて知った。こうした話はとても興味深い。辰野さんのことをずっと「天才」だと思っていたが、「努力の人」だと知れてよかった。強い情熱で夢に向かって立ち向かった姿が十分に表現されていた。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- 一つ一つのエピソードをまとめて見れば分かりよいが、週一回の短時間番組を1話ずつ見た場合、内容を最後まで記憶にとどめながら見通すことができるか心配になった。「連載」方式は厳しいものがあるのではないか。「世界の車窓から」のような「一話完結」方式が視聴者に対して親切ではないかと感じた。20分や25分の番組にできないのかと感じた。
- ひと月を通して見れば起承転結がはっきりしたストーリー性ある番組だが、余分な部分を極力なくしているために、「もう少し知りたい」と感じる部分もあった。例えば、「プラハの春」で過酷な状況にあったエミール・ザトペックさんが（村社さんと会うために）来日した当時のいきさつや、それに村社さんがどう関わっていたのかなどにも触れて欲しかった。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、担当者からは、

- 放送時間について、過去にも「社外モニター」から「細切れで分かりにくい」というご指摘を頂いている。月1回の放送も考えられなくはないが、歴史を扱う番組の性質上、同じ写真や映像の使いまわしで番組が単調になってしまうという懸念がある。編成上のバランスなども勘案し、1話完結にも見えて4～5話で完結する番組の在り様が現時点ではベストだと考えている。
- こうした番組は相当の時間を確保し、しっかりと見せることができればベストなのだろうが、逆に非常に短い番組だからこそ月に4～5回の放送のチャンスがあるのだと捉えている。1回でも番組を見た視聴者が自ら関心を抱き、「もっと知りたい」と思ってくれたらとの思いで番組の制作に当たっている。
- ご紹介するエピソードは多少「人物」が多い傾向にあるが、「食べ物」や「祭り」「施設」など幅広く網羅できるよう心掛けている。有名無名はあっても、いまでも九州に「スピリット」が根付くエピソードを模索する中で、偶然1話を見た視聴者にも「得」と感じてもらえるような発見・感動をお伝えできるよう努めている。

などの説明をしました。